

## Ⅱ 図画工作「からだでかんしょうしよう」（2組）

### 1 学習の概要

図画工作の鑑賞というとは、作品を見て、良いところをワークシートにまとめることが思い浮かんできます。「からだでかんしょう」の学習では、作品を見て、そこから感じ取ったことを基に、自分たちの体で表現することを行いました。

図画工作が好きな子どもたちが多く、自分の発想や考えをもっています。その感じ取ったことを体や言葉で表現できるようになってほしいと願い、実践しました。

### 2 ねらい

- 作品の特徴を見つけ、体で表現する楽しさを味わおうとする。
- 作品の特徴をとらえ、気づいたことや面白さを友達に伝えることができる。

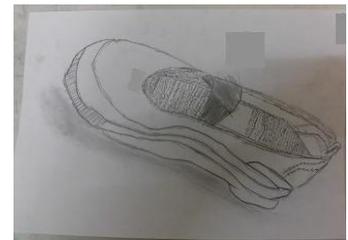
### 3 取り組み

#### (1) 創造活動の基礎づくり

自分の感じたことを表現するために、図画工作の基礎を学習しました。手法を学ぶことで、さまざまな表現方法があることに気づき、表現の幅を広げることができました。

##### ① スケッチ

上履きのデザインでは、靴の傷や汚れなどを細かく観察しました。細部まで見ることで、影の付き方も観察でき、鉛筆だけで明暗を表す方法を学びました。



「よくみて描いたよ」

##### ② 色彩

色の三原色（赤・青・黄）のみを使い、春と秋の葉の様子を表しました。混ぜる色の割合を少しずつ変えることで、自分の考える、春らしい色や秋らしい色を作りました。



「色がたくさんできた」

#### (2) 絵画

「大好きな物語」の学習では、植物の木目や町並みを細かく描いたり、絵の具のさまざまな色を少しずつ混ぜたりしながら、場面を想像して描きました。筆の使い方を変えたり、布やティッシュなどの道具を使ったりしながら、色を塗るだけではない、多様な表現をしている子どもが多くいました。

#### (3) 鑑賞

作品を見るだけでなく、自分がどう感じたのかを考えることを大切にし、鑑賞を行いました。

### ① からだでかんしょう

4人ずつのグループに分かれて、美術作品を真似しました。ポーズだけではなく、顔の表情や雰囲気、持ち物など、体を使ってどのように表現するかを話し合いました。真似をした作品をデジカメで撮影し、その都度見返しました。思うような写真が撮れなかった場合は、協力し、話し合いながら何度も撮り直し、本物の作品に近づくように工夫しました。撮った写真をいくつか選び、どの作品の真似をしたのかをクイズ形式で発表しました。その際、どの部分をどのように工夫したのかを発表しました。



「どの作品を真似しようかな」



「どんな風に写るのかな」「服を使って木を表現したよ」「何になりきっているでしょう」

### ② かりやど4年2組美術館

ギコギコクリエーターの鑑賞では、他の人の良いところをひと言ずつ付箋に書き、用紙に貼っていきました。「付箋に感想を書くのが楽しい」「もっと書きたい」という感想がありました。多くの子どもたちが、友達作品から、自分の感じ取ったことを言葉で表現できていると感じました。



「こびとが出てきそうだね」

## 4 成果と課題

体を使って鑑賞するということにはじめは戸惑う子どももいましたが、グループで話し合いをしていくうちに楽しそうに真似する様子が見られました。今回は教室で行ったため、思うような動きができなかった子どももいました。広い場所で行えば、もっとダイナミックな表現ができたのではないかと感じます。

これからも、子どもの発想や考えを自由に表現できる授業を設定し、学び合えるように支援していきたいと思います。